

説教「何度でも種を蒔かれる神の業」

エレミヤ七・二五

マタイ一三・一〜九

牧師 森田恭一郎

今日は種蒔きの譬えのお話しです。「種を蒔く人が種を蒔きに出て行った。蒔いている間に」(マタイ一三・一〜)と、主イエスは大勢の群衆に語り始めました。

歩きながらパラッと種を蒔きました。ふと後ろを見ると、今蒔いて道端に落ちた種を小鳥が来てついでに食べています。アツ食べられちゃった。駄目か、せっかく蒔いたのに、と思いました。

けれど、種を蒔く人は蒔き続けます。 ある種は石だらけで土の少ない所でしたが、二、三日経つと、すぐ芽が出てきました。「出てこい出てこい」可愛い芽が出て来たぞと嬉しくなつて、水をやります。でも、日が昇ると焼けて根も伸びないので枯れてしまいました。駄目か、せっかく芽が出て来たのにと残念でした。

けれど、種を蒔く人は蒔き続けます。 こちらの種は、芽を出し、二、三週間でしょうが、葉っぱになって茎も伸びてきます。「伸びてこい、伸びてこい」と種まく人は喜んで水をやります。でも、大きくなったのは、周りの雑草、茨でした。茨が伸びてきて、駄目か、せっかくの葉っぱも茎も塞がれて大きくなりません。

けれど、種を蒔き続けて蒔いた他の種がグングン成長してきました。二、三ヶ月経った頃でしょうか、良い土地に落ちた種は、小さな実がありました。「大きくなれ、大きくなれ」。水

をやり肥料もやった甲斐がありそうです。そうしたら実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなりました。

この種を蒔く人、何度でも種を蒔きました。

最初、小鳥に食べられても、次に日が昇って焼けてしまつても、三番目に茨に邪魔されても、四番目、種を蒔き、水をやり、肥料をやりました。諦めません。どうして諦めないで続けられるのでしょうか。それは、まだ見ぬ、実を結ぶ姿、収穫の時を思い描いているからです。

今年はオリンピック、パラリンピックの年。

選手たちは今年参加するまで、どれだけ練習を積み重ねてきたことでしょう。何度でも、トライしてきました。でも、もうこれ以上無理だ、と四分の三は諦めかけたかもしれない。けれど希望を捨てなかった。選手本人だけではありません。コーチだつて、家族だつて、友だちだつて、何度でも、応援し続けたに違いない。メダルを手にした選手は、これまでの努力が実つたと思つたに違いない。コーチも家族も友達も同じです。

それではメダルに手の届かなかった人は？

と思うかもしれません。選手たちは精一杯練習してここまで来たことに、きつと悔いはない。自分の人生ここまでやった、と悔いはない。

譬え話では、良い土地に落ちた種は実を結びました。良い土地に落ちなかった種は仕様がな

いのでしょうか……。

そこで皆さん、教会の横の道路と歩道の間にごうだれールがあります、その下の所をちよつと見て欲しい。雑草ですが青々と草が並んでいます。舗装している、良い土地なんて全然言えない所です。けれどもその雑草は、そこを良い土地だと思つて、葉を茂らせていますよ。季節には花も咲かせている。何と力強い生命力であることか。そう思うとあの雑草を抜く気になれない程です。後で可愛い雑草たち見てやってね。

種蒔く人は何度でも種を蒔きました。 この譬

えを語つて下さったのはイエス様です。私たちに一人ひとりに愛の種を何度でも蒔いて下さいます。駄目かと思われる私たちの姿があつたかもしれない。けれどイエス様は諦めない。

父なる神様も諦めません。旧約の時代から。

お前たちの先祖がエジプトの地から出たその日から、今日に至るまで、私の僕である預言者らを、常に繰り返してお前たちに遣わした(エレミヤ書七・二五)。繰り返して、何度でも、預言者たちを通して、神様の愛の言葉を蒔いて下さつた。でも、それでも、私に聞き従わず、耳を傾けず、却つてうなじを固くして、先祖よりも悪い者になつた(同二六節)。彼らは何て頑固な罪深い者たちでしょう。けれど、それでも神様は、諦めない。主イエスを私たちの所に遣わして下さつて、頑な罪を十字架で負つて下さるからです。そしてもう一つ付け加えると、イエス様は、七十倍までも(マタイ一八・二三)、何度でも

私たちの罪を赦す種を蒔いて下さいます。そうやって立ち直って実を結んでいく私たちの姿を、私たちに先んじて、主イエスは見ておられます。

皆さんは自分だけを見ていると、やっぱり駄目かと思うってしまうかもしれません。けれど、主イエスは、皆さんの生まれてきて良かった、生きていていいんだ、これからも生きていこう、そう思ってイエス様を見上げて生きる一人ひとりを思い描いて、そのように見ておられます。
それで今日もこの礼拝で、愛のみ言葉の種を蒔いて下さいます。イエス様は諦めません。教会も応援します。だって、皆さんは、イエス様がもう既に、実を結ぶ姿を思い描いて見てもらっている、そういうお一人おひとりだからです。